

くすりの豆知識

—もっと知りたい！ おくすりのこと！—

No.5

薬の効果と副作用

—こんな時、気をつけよう—

治療の目的にかなう薬の作用を主作用といいます。主作用のあらわれ方は個人の体質や体の状態によって異なりますので、その効果を最大限に引き出すために、個々の患者さまに適した薬が選択され必要量と使用方法が決定されています。

一般に薬はさまざまな作用を兼ね備えていることが多く、治療の目的にかなう主作用のほか、治療上必要のない作用やむしろ障害となる作用、いわゆる副作用を起こすことがあります。たとえば、鎮痛薬を服用して頭痛がおさまるのは主作用によりますが、胃が荒れて吐き気をもよおすことがあるのは副作用によるものです。

副作用は主作用と同様に、個人の体質やその時の体の状態、一緒に服用する薬との組み合わせ、あるいは誤った使用方法によっても起きることがあります。薬の同じ作用が、使用する目的により主作用になったり副作用となったりしますし、ある作用が適度にあらわれると主作用となりますが、過度にあらわれると副作用にもなります。



一般に効き目のすぐれた薬ほど副作用があらわれやすい傾向がありますが、重い症状を引き起こすこともあるため、次の点に注意しましょう。

【薬を使用する前の注意】

●アレルギー体質の方

薬によるアレルギーは副作用のなかでも特に重要で頻度が高く、抗生物質、解熱鎮痛薬、検査で使用するエックス線造影剤などで多くみられます。以前に薬などにより発熱、じんま疹、呼吸困難、ショックなどのアレルギー症状を起こしたことのある方は、同じ薬によって以前よりも重い症状を引き起こすことがあるため、必ず医師・薬剤師に相談しましょう。

●複数の薬を服用している方

複数の薬と一緒に服用すると、薬同士が作用しあって、お互いの作用をとときには強めて重い副作用がでることがあります。薬局で購入した市販の薬を服用している場合にも、必ず医師・薬剤師に相談しましょう。

●妊娠中あるいは授乳中の方

薬の種類によっては、胎児に移行して奇形や流産・早産などを引き起こしたり、母乳から乳児に移行して障害を起こすことがあるため注意しましょう。



【薬を使用中の注意】

●薬を使用する時には使用法（用法・用量）を正しく守り、常に体の変化に気をつけましょう。

薬を使用中にいつもと違う症状、たとえば発疹などの皮膚症状、下痢などの胃腸症状などに気づいた場合には、ときには非常に重い副作用につながることもあるため、すぐに医師に連絡しましょう。薬を使用中は常に体の変化に気をつけていることが、重い副作用を防止することになります。

2018/10/18